

仏様のおはなし新シリーズ第73集 その1 「お釈迦さまと阿弥陀さま」

毎月第2土曜日はお寺の子ども会。子どもたちはお勤めとご法話をいただいた後、ゲームをして遊びます。本堂は子どもたちの元気な声で賑やかです。ある時、その中のひとりの子どもに尋ねられました。「おしゃかさまとあみださまはいつしよなんでしょ?」と。

私たちは普段、お釈迦さまも阿弥陀さまも「仏さま」とひとくくりで呼んでいるような気がします。お釈迦さまと阿弥陀様は一緒でしょうか?

お釈迦様は昔、インドのシャカ国の王子としてお生まれになりました。お妃さまと子どもと何不自由のない暮らしをおくっていました。しかし、人間の生老病死という逃れられない苦しみに直面した時、「私はどう生きるべきか」と悩まれ、すべてのものを捨て出家されました。そして長い修行の後、とうとう菩提樹の下で悟りをひらき、私たちを苦しみから救う道を説かれました。

阿弥陀様は浄土真宗の御本尊です。本堂の内陣の真ん中に安置されていますので皆さんもご覧になっていることでしょう。阿弥陀様は私たちを必ず救いますと願われ、働きかけてくださっている仏様です。いつも私たちを心配していらっしゃるのでゆつくり座っているお姿ではなく、立っているお姿です。

親鸞上人は「正信心仏偈」の中でお釈迦様を「如来所以興出世 唯説弥陀本願海」と説かれています。

「お釈迦様がこの世にあらわれてくださった訳は阿弥陀様が私たちを救わずにはいられないという大きな海のような願いを説かれるため。」なのです。

お釈迦様は阿弥陀様の救いと働きを私達に説かれるためにこの世にお生まれになったのです。

「そうか、おしゃかさまとあみださまはいつしよじゃないんだあ。あみださまはおしゃかさまのおとうさんかせんせいみたいなのとけさまなんだね。」と子どもたちも納得した様子です。

子ども会でも学校でも、これからも阿弥陀様に手を合わせてみんなでなかよく遊びましょうね。

